

# 鶴岡市の紹介

	つるおかし <b>鶴岡市</b>		〒997-8601 鶴岡市馬場町9番25号		TEL 0235 (25) 2111		FAX 0235 (24) 9071				
	地名由来		中世には大宝寺と称したが、慶長8年に大宝寺城を鶴ヶ岡城と改名したのに伴い地名も鶴ヶ岡と改められ、これが近代に入り次第に鶴岡と呼ぶようになったという。		市の木、花		けやき・庄内柿・さくら				
地勢	庄内平野の西南部に位置し、市域は東西南北約20kmのほぼ正方形である。東は赤川で画され、西は日本海に面している。西南は、丘陵地帯で東南部から北部に平野が広がっている。気候は、夏季は晴天に恵まれ、冬季は曇天が多い。										
地域の特性	江戸時代は庄内藩14万石の城下町で、市民性は、藩校「致道館」に象徴される、文化を重んじる好学な気風。第3次鶴岡市総合計画では、目指す都市像を「いのち輝き 新しい文化を創造する 緑の城下町 鶴岡」と定め、これを基本目標として、市民と行政が力を合わせ、実現に邁進しているところである。また、平成13年には慶応義塾大学先端生命科学研究所も開設され、バイオ分野における世界レベルの研究が日夜行われている。										
沿革	大正13年10月1日市制施行(明治22年町制施行) 昭和30年4月 栄村(西)、京田村、大泉村(西)、湯田川村、黄金村、斎村編入 昭和30年7月 田川村、上郷村、豊浦村、加茂町編入 昭和38年9月大山町編入										
区分	人口(人)	世帯数(世帯)	高齢化率(%)	総面積	林野面積割合	可住地面積割合	D I D s 人口(平成12年国調)				
昭和40年国調	95,615	22,096	6.8	233.91km <sup>2</sup> (県内13位)	43.9%	52.6%	60,821人(県内3位)				
昭和50年国調	95,932	25,468	9.9	昼夜間人口比(平成12年国調)	105.9%(県内5位)	人口密度(平成12年国調)	430.2人/km <sup>2</sup> (県内4位)				
昭和60年国調	100,200	28,125	13.4	産業別就業人口(平成12年国調)		住民基本台帳人口(平成14年3月末)	有権者数(平成14年6月2日)				
平成2年国調	99,889	29,271	16.1	第一次産業	3,526人	7.0%	男	47,884人	男	37,217人	
平成7年国調	100,538	31,084	19.2	第二次産業	17,100	33.8	女	52,116	女	42,257	
平成12年国調	100,628	32,825	22.3	第三次産業	29,931	59.2	計	100,000	計	79,474	
同上県内順位	3位	3位	38位	計	50,586	100.0	出生率(平成13年)	9.3‰(県内7位)			
農業粗生産額(平成12年)	1,243 千万円(県内4位)		製造品出荷額等(平成13年)		15,765 千万円(県内6位)		年間商品販売額(平成11年)		23,556 千万円(県内4位)		
三役	市長 富塚 陽一 (任期 平成15年 12月 8日 3期目)				議	議長 本城 昭一		党派別議員数(平成14年 7月1日)			
	助役 芳賀 肇 (任期 平成18年 9月30日 1期目)					副議長 菅原 信喜		自民党 14	公明党 2	無所属 8	
	収入役 中村 雄一 (任期 平成17年 3月31日 1期目)				議員定数 32人(法定定数 36人)		社民党 1	新社会党 1	共産党 5 民主党 1		
行政組織機構	市長 ——— 助役 ——— 総務部(7課、2室、東京事務所、致道ライブラリー)・市民部(3課)・環境衛生部(1課)・健康福祉部(4課、6施設)・産業部(4課)・建設部(5課、1センター)・荘内病院・荘内看護専門学校				議会 ——— 事務局		農業委員会 ——— 事務局		職員数(平成14年4月1日)		
	収入役 ——— 会計課								一般行政 534人		
	水道部(2課)				特別行政 186						
	教育委員会 ——— 事務局(4課、10施設) 小学校・中学校・幼稚園				選挙管理委員会 ——— 事務局		固定資産評価審査委員会		公営企業等 655		
					監査委員 ——— 事務局		公平委員会(委託)		病院 542		
									水道 56		
									その他 57		
									合計 1,375		
一部事務組合加入状況	山形県消防補償等組合(44市町村) 山形県自治会館管理組合(44市町村) 山形県市町村職員退職手当組合(9市31町村) 鶴岡市ほか六箇町村衛生処理組合(1市6町村) 庄内広域行政組合(2市12町村) 鶴岡地区消防事務組合(1市6町村)										
協議会加入状況	庄内地区視聴覚教育協議会(2市12町村)										
財産区	加茂(山林・宅地その他)										
公社及び主要第三セクター	(財)鶴岡市開発公社 (財)鶴岡市学校給食会 (財)庄内地域産業振興センター (社)荘内文化財保存会 (株)鶴岡再開発ビル (株)赤川スポーツランド (財)出羽庄内国際交流財団										

# 鶴岡市の紹介

特性を活かした行政活動と最近の状況	平成13年度に開設した慶應義塾大学先端生命科学研究所をはじめ、山形大学農学部、鶴岡工業高等専門学校との連携を図りつつ、厳しい国際競争に耐える先端的な未来型産業の育成による産業の振興と、それを支える有能な人材を養成するため、高度な研究・教育機能の集積をはかり、産業の高度化を促進する。また、特に若年層の定着・導入のためにも、大学・高専・研究所の機能を拡充し、新たな職場を開くなど力強いまちを築いていくこと、歴史的・文化的資源や自然資源の魅力を生かしたまちづくり、地域コミュニティを再構築し、安心して明るく暮らせる福祉のまちづくりを目指している。 また、最近の話題として、本市出身の作家藤沢周平原作の映画「たそがれ清兵衛」でも近隣の町とともに、ロケ地として取り上げられた。										
基本構想	第3次鶴岡市総合計画 平成8年3月26日議決 計画期間 8～17年度			基本計画			第3次鶴岡市総合計画 平成8年8月1日 計画期間 H8～17年度				
行政方針等	「いのち輝き 新しい文化を創造する 緑の城下町 鶴岡」をめざす都市像とし、5つの基本理念に基づいてまちづくりを展開する。 共に学び、共につくる自分たちのまち 自然と歴史を愛し、共に生きるまち 地域を超えて共に交わる小さな国際都市 人と技術が交わる活力のあるまち 個性と機能が交差する快適追求都市						重点事業	・慶應義塾大学先端生命科学研究所の充実 ・東北公益文科大学大学院の整備 ・バイオ・情報関連新産業集積地区の整備 ・芸術文化総合展示場(仮称)の整備 ・地方拠点都市地域整備事業(西部、北部、中心市街地区)			
都市宣言等	交通安全都市宣言 暴力追放都市宣言 障害者福祉都市宣言 平和都市宣言 海洋開発実験基地宣言 暴走族追放都市宣言										
特色ある条例	鶴岡市空き缶等の散乱の防止に関する条例										
姉妹・友好都市	姉妹都市: ニューブランズウィック市(アメリカ) 木古内町(北海道) 兄弟都市: 鹿児島市 友好都市: 江戸川区(東京都) ラフォア市(仏領ニューカレドニア)										
普通会計決算状況 (百万) (%)	区分	歳入		地方税	地方譲与税	地方交付税	国支出金	県支出金	地方債	その他	
	11年度	39,391 (100.0)		11,200 (28.4)	341 (0.9)	11,089 (28.2)	4,345 (11.0)	1,596 (4.1)	3,869 (9.8)	6,951 (17.6)	
	12年度	37,232 (100.0)		10,967 (29.5)	354 (1.0)	11,075 (29.7)	2,184 (5.9)	1,521 (4.1)	4,432 (11.9)	6,699 (18.0)	
	13年度	36,188 (100.0)		11,000 (30.4)	359 (1.0)	10,771 (29.8)	2,482 (6.9)	1,499 (4.1)	3,420 (9.4)	6,657 (18.4)	
	区分	歳出		人件費	物件費	扶助費	補助費等	普通建設事業費	公債費	その他	
	11年度	38,042 (100.0)		6,442 (16.9)	4,182 (11.0)	4,614 (12.1)	5,237 (13.8)	6,579 (17.3)	4,625 (12.2)	6,363 (16.7)	
	12年度	36,057 (100.0)		6,354 (17.6)	3,565 (9.9)	3,543 (9.8)	4,765 (13.2)	6,224 (17.3)	4,873 (13.5)	6,733 (18.7)	
	13年度	35,140 (100.0)		6,378 (18.1)	3,739 (10.6)	3,829 (10.9)	4,990 (14.2)	4,662 (13.3)	4,700 (13.4)	6,842 (19.5)	
	区分	形式収支	実質収支	標準財政規模	地方債現在高	積立金現在高	実質収支比率	財政力指数	公債費比率	起債制限比率	経常収支比率
	11年度	1,349	1,347	22,092	41,824	3,482	6.1	0.514	16.9	12.1	87.5
	12年度	1,176	1,136	22,206	42,816	2,756	5.1	0.501	16.3	11.9	87.3
	13年度	1,048	857	21,832	42,858	2,772	3.9	0.493	16.7	12.1	88.8
	公共施設設備状況 (H13公共施設状況調査)	道路延長	道路改良率	道路舗装率	永久橋比率	上水道普及率			下水道等普及率		し尿衛生処理率
635 km		68.8%	90.2%	100.0%	99.6%			72.2%		99.6%	76.1%
公営住宅等		公園	人口一人当り公園面積		病院	診療所	養護老人ホーム	保育所	児童館	幼稚園	
632戸		90ヶ所	11.1㎡(行政区域内)		7院	126ヶ所	1ヶ所	24ヶ所	1館	11園	
小学校	中学校	高等学校	高専短大	公民館	図書館	体育館	プール	市民会館	漁港		
21校	6校	7校	1校	1館	1館	6館	6ヶ所	1館	2ヶ所		
行事・祭等	桜まつり 天神祭 大山犬まつり 赤川花火大会 荘内大祭 庄内百万石まつり 鶴岡冬まつり										
名所・旧跡等	致道博物館 致道館 善宝寺 鶴岡公園 風間家旧宅「丙申堂」 鶴岡カトリック教会天主堂 加茂水族館										
特産品・名物	御殿まり いづめこ人形 絵ろうそく 庄内竿 絹織物 庄内米 地酒 漬物 孟宗汁 寒鱈汁 だだちゃ豆 砂丘メロン 庄内柿										
主要企業等	山形日本電気(株) オリエンタルモーター(株) イズミ工業(株) 鶴岡工場 (株) 山形ケンウッド 鶴岡TDK(株) 田中貴金属工業(株) (株) 高研										



# 鶴岡市

平成14年12月3日

## 鶴岡の都市づくりの歴史

～400年の先人の努力～

【江戸期】



金峰山へ



【現代】



金峰山へ

「不易流行」  
本質的なものを大切に守り、一方、  
新しい時代の要請に応じて大胆に変  
わっていくことが大事。

時代の課題に真剣に研究し、チャレ  
ンジしてきた**400年の貴重な努力**の積  
み重ねの上に、今の鶴岡がある。

## 教育文化を重んじる地域個性

～ 鶴岡市の歴史性、市民性から ～

- ・鶴岡は、庄内地方の政治、経済、文化の  
中核都市として発展。
- ・教育・文化・学術・研究を尊ぶ精神風土は、  
本市の際立った特性。

致道館

鶴岡市の都市アイデンティティ

致道館教育

1805年創設、200年の歴史



## 致道館教育の特徴

教育方針

祖徠学の採用

個性の重視

自学自習

子供のうちは、面白く遊ばせながら教えて、個性を伸ばそう!!

教えすぎにならないよう、注意しながら、よく確かめ、深くじっくり考える力を養おう!!



## 文化庁長官 河合隼雄 氏



天性と個性 能力差の肯定 (平成9年9月10日付京都新聞抜粋)

(前略)

致道館では庄内藩の子弟が学問をするのだが、その趣意書(被仰出書)を見ると、人間には「天性、得手不得手」がある。そして「天性の大なる者は大成し、小なるものは小成」するので、個々人の天性を見抜いて指導することが大切だと書いてある。

これを見て、「アレッ」と思ったのは、今、日本の教育界で大切な課題となっている「個性の尊重」ということが思い浮かんだからである。

(中略)

・・・指導者に対する注意として、「学校の儀は、少年輩の遊び所」だから、「何事も寛大に取り扱い」、子どもたちが退屈しないように「面白く存じ業を教え遊ばせる」ように努力するべきである。・・・これは個性を伸ばそうとする初等教育の方法として最高のことではないだろうか。

(中略)

上級者はどうなるのだろう。最上級生は「舎生(しゃせい)」と呼ばれ、このような生徒・・・は、一人一室を与えられ、「完全な自発学修である。すべての雑用から離れ各室において修学に専念」し、質問があるときのみ指導者に教えを乞うシステムであった。・・・学風は敦生徂徠の教えによっているのだが、その教えに従って、・・・学生の自発性を尊び、自説を押し付けることのないように注意した。・・・「人二教ヘラレタル理屈八皆ツケヤキバナリ」と心得て、教えすぎにならぬようにしなくてはならない。「彼ヨリ求ムル心ナキニ、此方ヨリ説カントスルハ説クニアズ売ルナリ。売ラントスル念アリテハ、皆己ガ為ヲ思フニテ彼ヲ益スルコトニハナラヌコトナリ」。こんなものを読むと、・・・ともかく、致道館の教育方針は、現代の大学院においても理想的と言っていいたいだろう。

(後略)

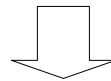


## 致道館教育の市民へ浸透



致道館は1805年、第九代忠徳(ただあり)公によって設立され、1873年(明治6年)に閉校。

しかし、致道館教育は、教育制度の近代化とともに、閉校後も脈々と受け継がれ、学習を楽しみ、じっくりと物事を考える伝統として市民に浸透。



優れた人材の輩出



## 幾多の人材の輩出 ～ 鶴岡に学び、開花した才能 ～



酒井調良



高山樗牛



黒崎研堂



藤沢周平



丸谷才一



相良守次



相良守峯



高橋兼吉



松森胤保



木村九兵衛



渡部昇一



林信雄



土田義晴



伊藤鶴代



小池正直



土屋竹雨



石原莞爾



田澤稲舟



佐藤賢一



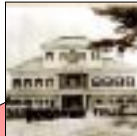
東山哲也



## 学びがまちの「芯」

### ～ 脈々と受け継がれる学びの伝統 ～

朝暁学校



致道館



慶應義塾大学  
先端生命科学研究所



慶應義塾大学  
バイオラボ棟



荘内中学校



教育による、人づくりを続けること  
教育・文化の高度化を続けること

高度な教育・文化都市としての誇り

鶴岡工業学校



鶴岡高等女学校



鶴岡裁縫学校



山形大学農学部



鶴岡工業  
高等専門学校  
地域共同  
テクノセンター





# 市政の概要

## 鶴岡市の概要 ～ 沿革 ～

大正13年10月1日

**全国100番目の市**として鶴岡市が誕生

(町制施行は明治22年)

昭和30年

4月 斎村、黄金村、湯田川村、大泉村、京田村、栄村と合併

7月 加茂町、田川村、上郷村、豊浦村と合併

昭和38年

大山町と合併 **現在の市域となる**

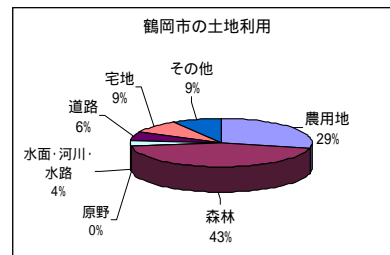
## 鶴岡市の概要

### ～ 地勢 ～

**面積:** 233.91 km<sup>2</sup>

**市域:** 東は赤川、西は日本海に面し、南には山岳・丘陵地帯

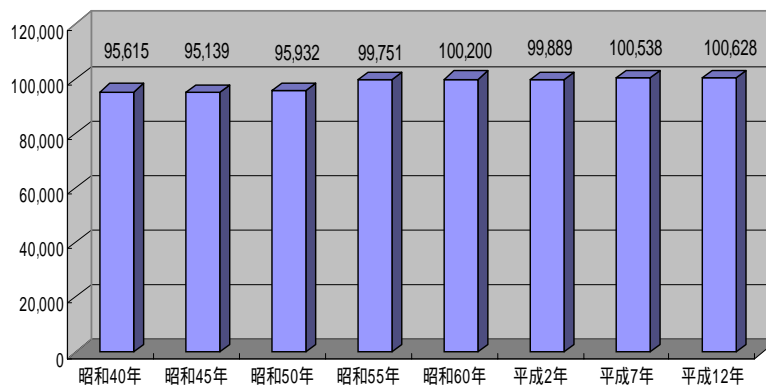
**土地利用:** 農用地が29%、森林が44%、宅地その他が27%



## 鶴岡市の概要

### ～ 人口の推移 ～

総人口

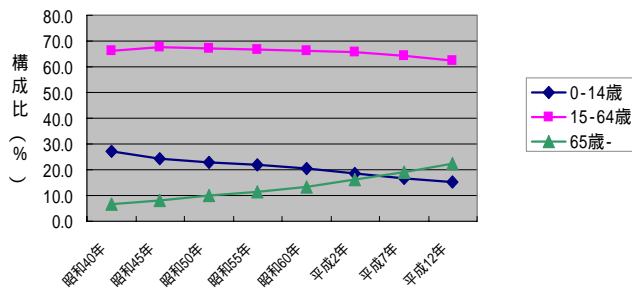




# 鶴岡市の概要

## ～ 人口構造の推移

年齢(3区分)別人口構成の推移

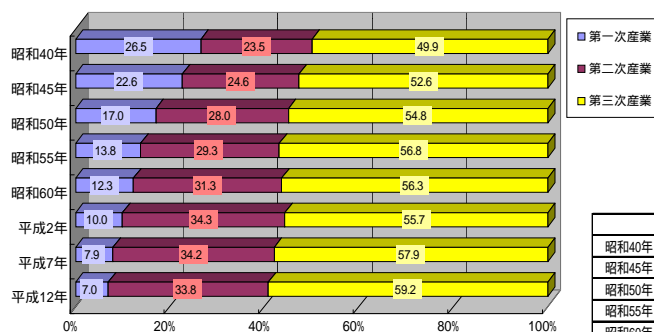


年齢	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
0 - 14	27.0	24.1	23.0	21.7	20.4	18.4	16.8	15.3
15 - 64	66.3	67.7	67.2	66.7	66.2	65.6	64.1	62.4
65 -	6.8	8.1	9.9	11.6	13.4	16.1	19.2	22.3

# 鶴岡市の概要

## ～ 人口構造の推移

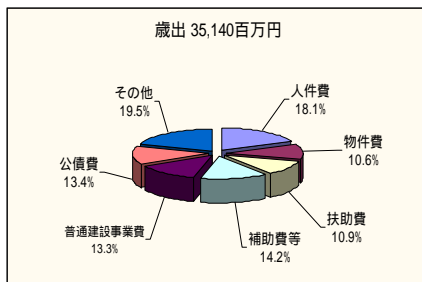
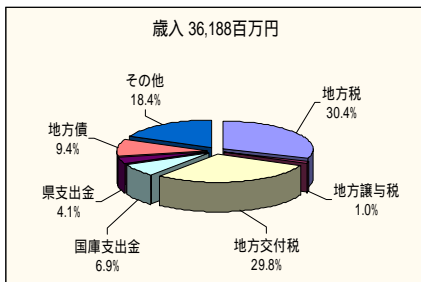
産業三部門別就業者(15歳以上)人口構成の推移



	第一次産業	第二次産業	第三次産業
昭和40年	26.5	23.5	49.9
昭和45年	22.6	24.6	52.6
昭和50年	17.0	28.0	54.8
昭和55年	13.8	29.3	56.8
昭和60年	12.3	31.3	56.3
平成2年	10.0	34.3	55.7
平成7年	7.9	34.2	57.9
平成12年	7.0	33.8	59.2

# 鶴岡市の概要 ～ 本市の財政状況 ～

平成13年度普通会計決算状況及び財政指標



区分	歳入	地方税	地方譲与税	地方交付税	国庫支出金	県支出金	地方債	その他
13年度	36,188	11,000	359	10,771	2,482	1,499	3,420	6,657
区分	歳出	人件費	物件費	扶助費	補助費等	普通建設事業費	公債費	その他
13年度	35,140	6,378	3,739	3,829	4,990	4,662	4,700	6,842

単位:百万円

財政力指数	公債費比率	起債制限比率	経常収支比率
0.493	16.7	12.1	88.8



# 鶴岡市の総合計画

平成8年策定  
**「第三次鶴岡市総合計画」**

市民と行政が、まちづくりを進めるにあたっての課題と将来像を共有できるように、克明に理念とイメージを示す事に留意して、表現や構成を工夫。



## 鶴岡市の総合計画 ～ 計画の理念 ～

自然・歴史・文化の諸資源について、潜在する普遍的な価値を究めながら、これを基礎に融合・調和する新たな文化の創造を積極的に促す。

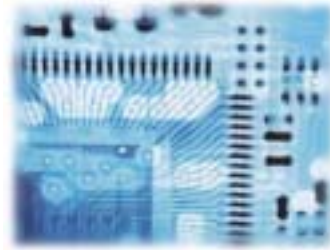
市民一人ひとりが家庭や地域での学びやふれあい、交流を通じて、創造的な明るいエネルギーを発揮し、思いやりと活力にあふれ、いのち輝く生き生きとした生活を送り続ける。

## 鶴岡市の総合計画 ～ めざす都市像 ～

**いのち輝き**  
**新しい文化を創造する**  
**緑の城下町 鶴岡**

## 工業

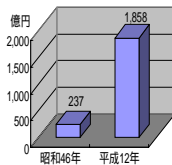
- ▶ 5つの工業団地を中心として  
先端的な企業の集積による  
強固な産業基盤を構築
- ▶ 地域全体の雇用の受け皿として  
住民のくらしを支える中核的な産業



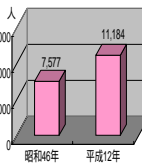
LSI(大規模集積回路)

### ▶ 工業団地造成の効果

工業出荷額の推移



従業員数の推移



	昭和46年	平成12年
工業出荷額 (億円)	237	1,858
従業者数 (人)	7,577	11,184

## 農業

- ▶ 認定農業者を中心に農用地を集積
- ▶ 共同乾燥調整施設や圃場整備事業等  
による生産性の向上
- ▶ 稲作、園芸、畜産等の産地形成の促進



朝市



だだちゃ豆

- ▶ JA鶴岡等との連携を強化し  
共に取り組む農業の発展
- ▶ 「だだちゃ豆」等、  
古くから守り育てた地域の宝を  
新しい数々の取組みで全国展開

## 商業

### ▶ 誘客の拡大にむけて

- 商業基盤整備  
アーケード、コミュニティプラザ「セントル」等
- ソフト事業  
銀座商店街「日本海寒鰯まつり」、  
山王商店街「ナイトバザール」等



中心商店街マップ



ディスプレイデザインコンテスト

### ▶ 鶴岡タウンマネジメント機構 (TMO) の新しい様々な取組み

中心市街地情報誌「街さ・いGO!」  
ディスプレイデザインコンテスト  
チャレンジショップ 等



## 観光

### ▶ 歴史的建造物等の資源を活用した市街地観光を推進

### ▶ 知的な要望に応える観光

藤沢周平作品の「海坂藩」の原風景、  
映画「たそがれ清兵衛」等



鶴岡公園と旧西田川郡役所



湯野浜温泉

- ▶ 地域の特性を発揮して、  
トレンドに対応した誘客を推進  
湯野浜温泉「国際ノルディックウォーク大会」  
「国民保養温泉地」湯田川温泉 等

▶ 昨年の観光客数 約250万人



## 都市整備

- ▶ 城下町の歴史的な構造を大事にし、中心市街地の魅力や機能を向上  
ふるさとの川モデル事業、  
荘内病院の移転新築、  
シビックコア地区整備計画の策定 等



市街地整備イメージ図



ワークショップ

- ▶ 庄内の玄関にふさわしい都市機能の集積と景観形成  
JR鶴岡駅前再開発、  
鶴岡IC周辺の区画整理事業 等
- ▶ 住民参加型ワークショップ等により策定した、「コンパクトな市街地形成」をめざす都市計画マスタープラン



## 情報化

- ▶ 社会、経済、産業システムを大きく変革する情報化の推進
- ▶ 「鶴岡市のホームページ」  
迅速できめ細やかに情報発信



鶴岡市ホームページ  
(全国広報コンクール入賞 他)



鶴岡市ネットワークコミュニティセンター

- ▶ 「ネットワークコミュニティセンター」  
IT(情報通信技術)の普及・高度化  
市民の様々な活動をITで支援



## 交流

- ▶ 歴史に由来する  
心あたたまる交流の輪  
鹿児島市、江戸川区、木古内町(北海道)
- ▶ 子供たちを中心とした盛んな交流  
ニューブランズウィック市(米国)、  
ラフォア市(ニューカレドニア)



鶴岡市・江戸川区友好都市盟約20周年記念



出羽庄内国際村

- ▶ 「出羽庄内国際村」  
草の根の国際交流の推進、  
国際理解の充実
- ▶ 国際的にも魅力あるまちづくりを推進



## 教育・文化

- ▶ 高度な学習機会などの  
多様なニーズに対応した  
生涯学習を推進  
「鶴岡致道大学」「鶴岡学講座」他  
各種シンポジウム、学会、サミット 等



鶴岡致道大学



鶴岡市芸術祭

- ▶ 文化・スポーツに関する  
市民の高い関心と、  
トップレベルの活発な活動  
芸術文化協会加盟団体 62、  
体育協会加盟団体 57





## 地域コミュニティ

- ▶ 戦後の公民館活動を発展させ、住民主体の地域活動を推進
- ▶ 市内21の小学校区にコミュニティセンターを整備



黄金コミュニティ防災センター



消火訓練

- ▶ コミュニティセンターを拠点に、地域福祉、健康、生涯学習、防災などの様々な分野で活発な市民活動が展開



## 健康・福祉

- ▶ 多様化、高度化する市民ニーズ  
保健、医療、福祉、介護が連携し  
高水準の健康・福祉事業を展開



ディサービス

- ▶ 地域住民が主役の新しい「地域福祉計画」を策定中
- ▶ 公的な責任を重視した福祉施策の実施

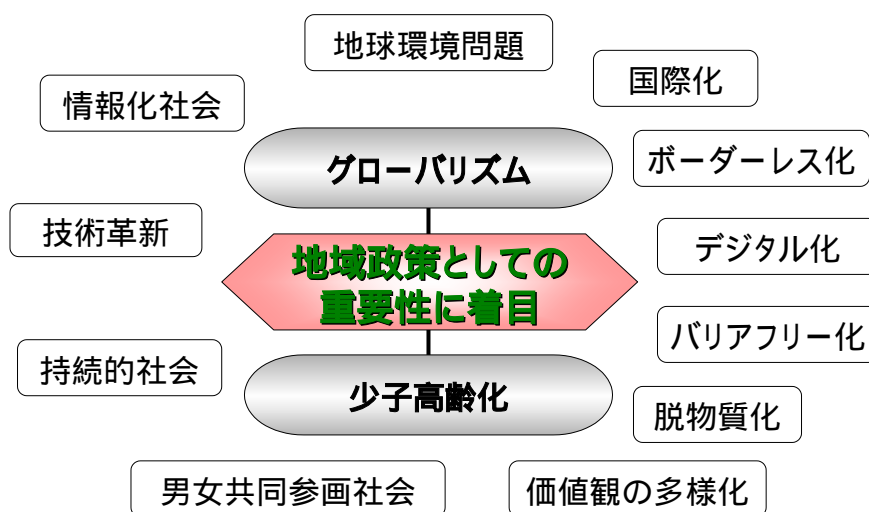






# これからの まちづくり

## 時代のトレンド



## グローバルizmと少子高齡化

### グローバルizm

国際競争の激化  
市民生活への市場原理の浸透  
文化の世界同一化

地域産業の発展と市民生活の向上  
地域の特色を活かした個性あるまちづくり

### 少子高齡化

コミュニティ崩壊の危機  
産業構造の変化

住みよい地域社会の構築  
一層期待される若い世代の定着

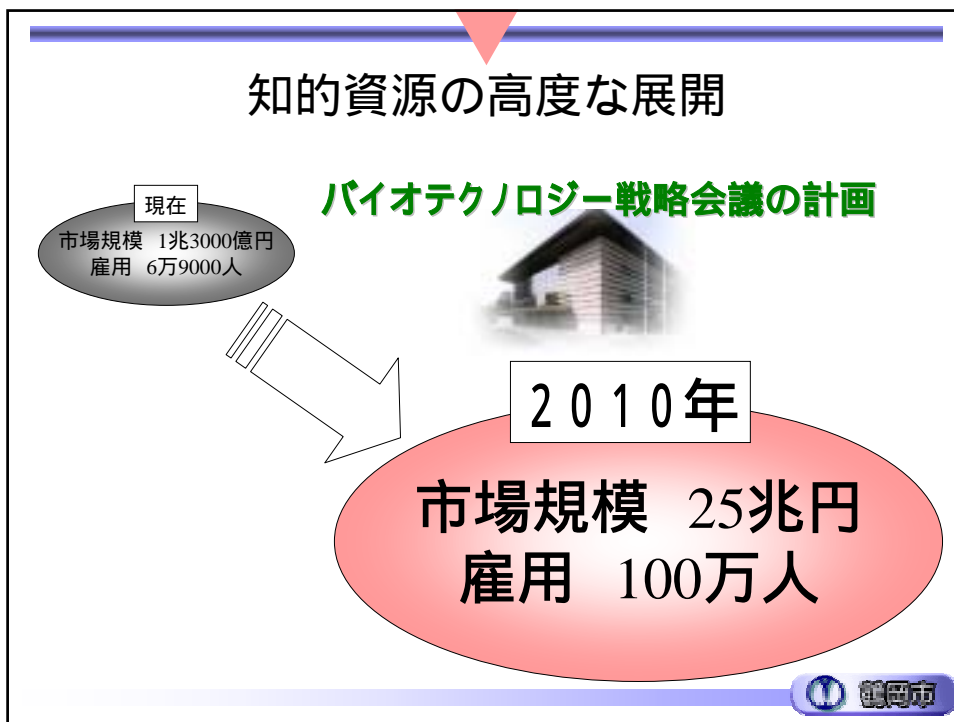
**夢と希望が持てる将来展望を描き、チャレンジ！**

## 今後のまちづくりの展開

**知的資源の高度な展開**

**鶴岡らしさ(歴史、文化)の伸長**

**コミュニティの再構築**



# 知的資源の高度な展開

## ～ バイオ関係の知的産業の集積と展開 ～

### 高等教育機関、地域との連携強化による知的戦略拠点の形成

慶應、山大農学部、鶴岡高専の研究教育活動の一層の拡充  
東北公益文科大学大学院の整備

### 高度な研究開発型産業の拠点整備

#### サイエンスパークの整備

(研究インキュベーション施設、研究開発支援施設)  
「鶴岡バイオキャンパス特区構想」の推進  
産学連携による「庄内バイオコンプレックス形成研究会」



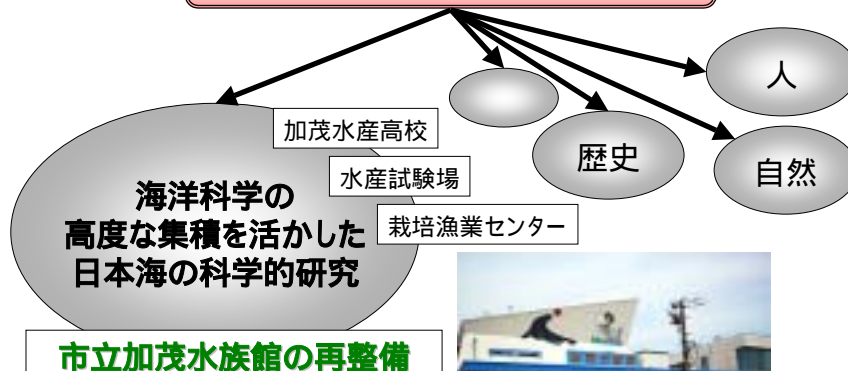
### 産業の内発的高度化、新産業の創出

リカレント的な人材の再教育制度  
コミュニティビジネスなどの育成システム



# 知的資源の高度な展開

## 既存の地域資源を高度に活用



## 知的資源の高度な展開

### 21世紀は知識の時代

高度な市民学習基盤の整備  
何をどう学ぶか掘り下げ研究  
知識社会に対応



### 地域の伝統、教育の伸長

## 歴史・文化における鶴岡らしさの伸長

### まちの再改造・・・第3期

中心市街地

鶴岡公園ルネッサンス事業  
鶴岡タウンキャンパス整備事業  
新荘内病院整備事業

市街地周辺部

大規模区画整理事業

商店街

歩いて暮らせるまちづくり

## 歴史・文化における鶴岡らしさの伸長



「鶴岡・庄内には、日本人が  
なくした精神風土がまだ残っている、  
それを撮りたい。」



文化の世界同一化の  
波にさらわれない、薫り高い  
地域特性が、鶴岡・庄内に残っている。

## 歴史・文化における鶴岡らしさの伸長



歴史と文化  
教育・学習の気風



鶴岡独特の  
風景、景観  
の構築

不易流行の  
いきいきとした  
まちづくり

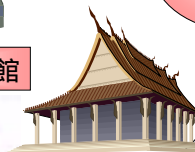
知的な雰囲気、  
新鮮な感動

## 歴史・文化における鶴岡らしさの伸長

鶴岡らしさが伸びていく事業の推進

市民の芸術  
活動の振興

歴史・文化の  
さらなる研究



芸術文化  
総合展示場

藤沢周平記念館

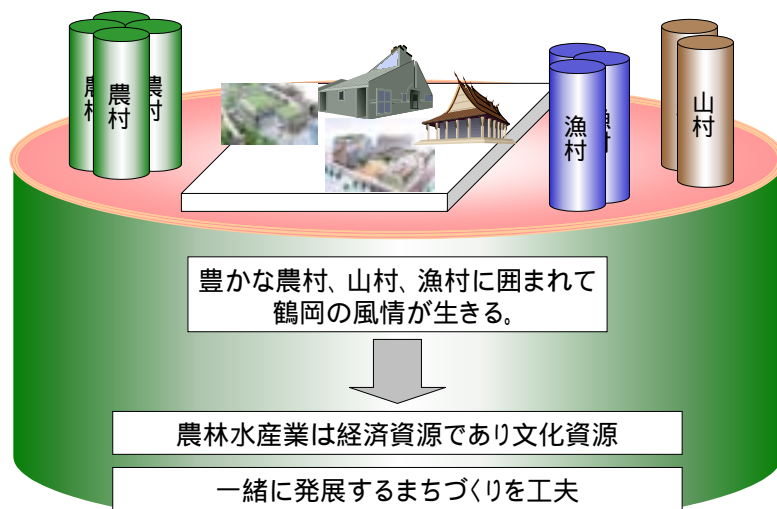
歴史資料館

シビックコア

新しい時代の中で、伝統が更に発展



## 歴史・文化における鶴岡らしさの伸長



## コミュニティの再構築

少子高齢化による  
コミュニティの  
活力の低下、機能の脆弱化

住民ニーズの  
多様化・複雑化、拡大・高度化

地域社会のあり方や  
行政のあり方の見直し

市民の生活を市民自身  
が支えるシステムづくり

日常生活レベルでの  
地域コミュニティの再構築



## コミュニティの再構築

新たな地域  
コミュニティづくり  
モデル事業



健康づくりの  
拠点施設の整備



新病院を中核とした  
地域医療システムの確立

住民の暮らしに密着したソフト・ハードの基盤整備

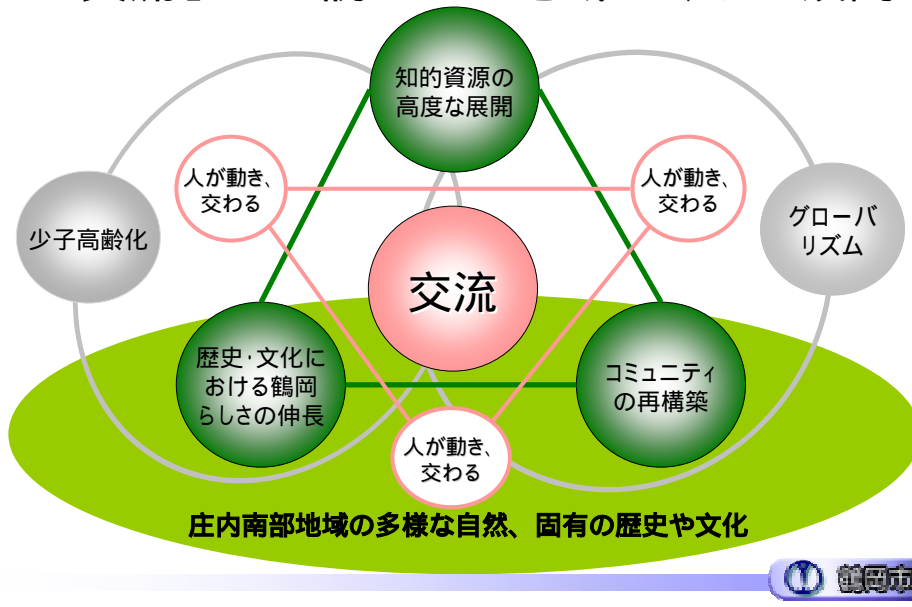
地域課題の掘り下げを  
行うとともに、お互いの  
生活を温かく支え合い、  
助け合う仕組みづくり

温かくて、生き生きした  
コミュニティの構築





## 「交流」を基調とした地域づくりの展開



## おわりに

### 庄内南部の中核都市として果たすべき役割

#### 福祉・健康

新しいニーズに対処するための福祉基盤の整備  
積極的な健康づくりを行う健康センターの整備

#### 産業

新しい時代に相応しいサイエンスパークの整備  
インキュベーション施設の整備  
コミュニティビジネスなどの市民起業・ベンチャーへの支援  
鶴岡駅前のポテンシャルを高度に活用した  
21世紀型の産業拠点の整備  
農林漁業をしっかり守り通す体制づくり

#### 文化

貴重な歴史資源を発掘・研究する  
研究施設と体制の整備  
知識社会を支える学習基盤の整備  
藤沢周平先生の記念館の整備

#### 市街地整備

庄内の中心としてのシビックコア（国合同庁舎、文化施設 等）の形成

21世紀における地域全体の発展基盤として  
中核的機能を持つ施設を整備し、様々なネットワーク化を図る。



これまでの絆を大切にし  
明るいエネルギーを未来へ！

終